

5月22日(金曜日)「ヒゼキヤ王(3)回復の矢先に」

【新改訳 2017】

Ⅱ列王記 20・12－21

「『見よ。あなたの家にある物、あなたの先祖たちが……たくわえてきた物がすべて、バビロンへ運び去られる日が来ている。何一つ残されまい、と主は仰せられます。また、あなたの……息子たちのうち、捕えられて……宮殿で宦官となる者があるろう。』(17、18節)

これは、預言者イザヤがユダの王ヒゼキヤに語った主のことばでした。

せっかく自分の真剣な祈りが聞かれて、アッシリヤへの勝利と健康の回復も与えられたのに、王はうれしさのあまりでしょうか、バビロンの使者に対して(たぶん、アッシリヤに対する同盟を結ぶことを願って親愛の情を示すために)、ユダの宝や武器庫まで、みな見せてしまったのでした。

これは、やはりいろいろな意味を込めて、油断だったと思われます。

ついに、神はイザヤを通して、ユダ王国はバビロンの捕囚となると預言されたのです。油断大敵です。主のあわれみで回復した矢先のことでした。うれしい時にも油断すると、命取りになってしまうことがあります。気をつけねばなりません。

～祈り～

主よ。喜びのあまり、油断すると、命取りになってしまうことを教えられます。どうか私たちが、そのような油断で失敗することがないようにお守りください。

【学びのために】

箴言4・23、1ペテロ5・8、9章参照。